

# 病理病態学

## 授業概要

疾病を代表的なカテゴリーに分け、それぞれについて分子・細胞レベルから組織・器官・個体レベルまで階層的かつ統合的に理解できるように教授する。

## 担当教員

並河 徹 (主担当)	教 授・病態病理学
丸山理留敬	教 授・器官病理学
吉山 裕規	教 授・微生物学
原田 守	教 授・免疫学
磯村 実	講 師・病態病理学

## 授業の形式

オムニバス形式を基本とする。

## 教育内容

1. ヒトの疾患のメカニズムを理解するために、代謝障害、循環障害、炎症、腫瘍など、人体の動的平衡状態の病的変化が、ヒトの組織、器官レベルでどのような形態変化として表れるのかを学ばせる。
2. 疾患の原因となる遺伝子や染色体の異常の機構を学び、疾患の遺伝について概観する。
3. 特定の感染症が、特徴的な病理形態変化を伴うこと、遺伝子や染色体異常を伴うこと、についても学ぶ。
4. がんに対する免疫応答の種類と免疫療法の背景となる理論を学ぶ。また、治療により誘導されるがん細胞死の種類を理解し、治療後に二次的に誘導される免疫応答を学ぶ。

## 成績評価の方法

レポート提出による。

## 使用テキスト・参考文献

がんの細胞生物学 RG McKinnell 他 安部達生他訳 医学書院  
最新論文 (担当者が準備)  
新生理科学体系 第16巻 循環の生理学 医学書院  
がん生物学イラストレイテッド 渋谷正史・湯浅保仁編 羊土社